

次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)の運用状況

次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／内外／株式

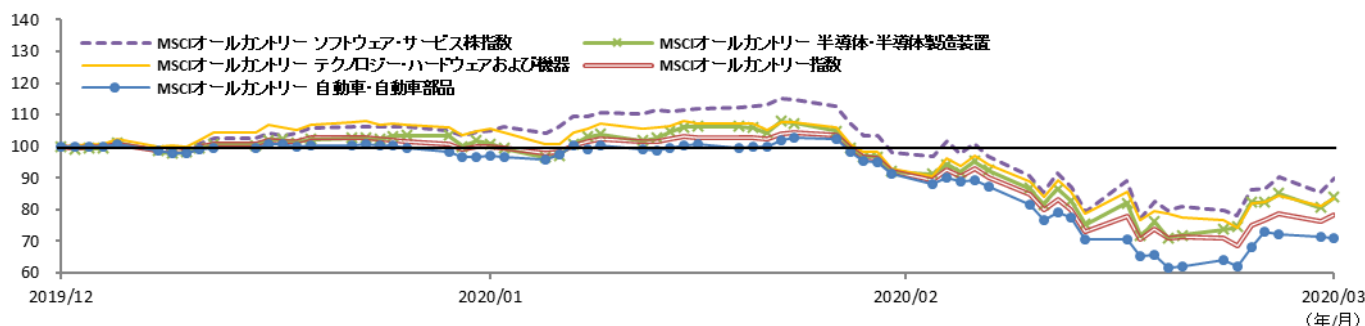
2020年4月16日

平素は「次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)」に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当レポートでは、足元の運用状況及び今後の見通しについてご報告させていただきます。

世界株式市場とモビリティ関連株の動向

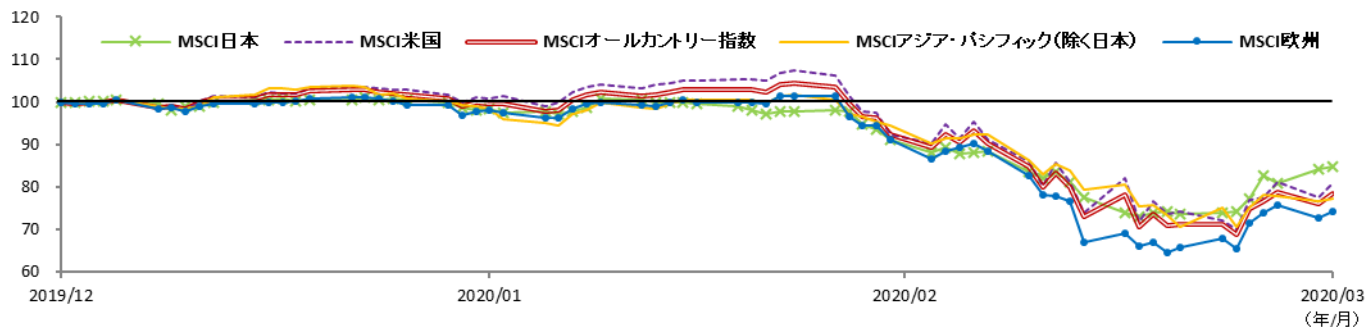
図表1 世界株式市場及びモビリティ関連株式の株価推移

(2019年12月30日～2020年3月31日、日次、円ベース)



図表2 地域別株価指数の株価推移

(2019年12月30日～2020年3月31日、日次、円ベース)



※ MSCIオールカンントリー指数は、MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※2019年12月30日を100として指数化

(出所) Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

図表1は、2020年1-3月期の世界株式市場と当ファンドの主要な投資対象である産業グループの株価指数推移を示したものです(円換算ベース)。同期間の世界株式市場は、前半は米中貿易摩擦への懸念が後退する中、米国の金融緩和と政策が継続するとの期待から上昇しました。しかし、2020年2月下旬以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が懸念され急落しました。3月末にかけては、世界各国が大規模な経済対策を打ち出したことや、各中央銀行による流動性供給により、落ち着きを取り戻し反発しました。

モビリティ関連株は、世界的な自動車販売の減少懸念から、自動車・自動車部品株の下落率が大きくなりました。一方、ソフトウェア・サービス株は、一定期間の利用に応じて料金を受け取るサブスクリプション・モデルを採用している企業が多く、業績見通しの不透明感が相対的に小さいことからMSCIオールカンントリー指数を上回りました。地域別では、イタリアやスペインなどで新型コロナウイルスの感染者数が急増した欧州の下落率が大きくなった一方、日本株は他市場を上回りました(図表2)。

2020年1-3月期の投資行動

自動車・自動車部品株や半導体・半導体製造装置株、ソフトウェア・サービス株を高位にウェイト付けしたポートフォリオで運用しました。

期中の投資行動としては、自動車販売台数減少による業績悪化懸念から自動車・自動車部品株を売却しました。一方、電気自動車向けに設計や構造最適化シミュレーション・システムを提供するソフトウェア・サービス株を買い付けました(図表3)。

国・地域別では、自動車・自動車部品株を中心に欧州株の売却を行う一方、ソフトウェア・サービス株を中心に米国株の買付けを行いました(図表4)。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／内外／株式

図表3 組入上位業種の推移

2019年12月末 組入上位業種		
	セクター名	比率
1	半導体・半導体製造装置	32.2%
2	自動車・自動車部品	25.8%
3	ソフトウェア・サービス	12.2%
4	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.9%
5	メディア・娯楽	6.0%



2020年3月末 組入上位業種		
	セクター名	比率
1	半導体・半導体製造装置	30.0%
2	自動車・自動車部品	18.2%
3	ソフトウェア・サービス	15.9%
4	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.2%
5	小売	6.0%

図表4 組入上位国・地域の推移

2019年12月末 組入上位国・地域		
	国・地域名	比率
1	米国	59.6%
2	オランダ	8.8%
3	日本	7.0%
4	ドイツ	4.9%
5	英領ジャージー	3.8%



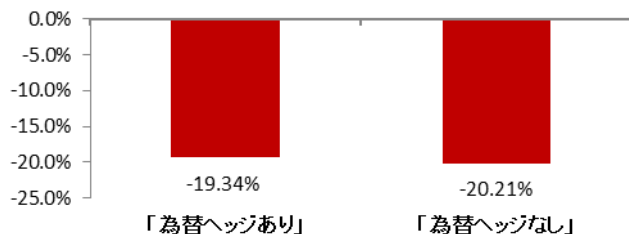
2020年3月末 組入上位国・地域		
	国・地域名	比率
1	米国	64.4%
2	オランダ	6.9%
3	日本	6.4%
4	ドイツ	3.6%
5	ケイマン諸島	3.2%

※図表3、4の比率は、次世代モビリティマザーファンドの純資産総額に対する組入比率です。
※国・地域は発行国で表示しています。

2020年1-3月期のパフォーマンス

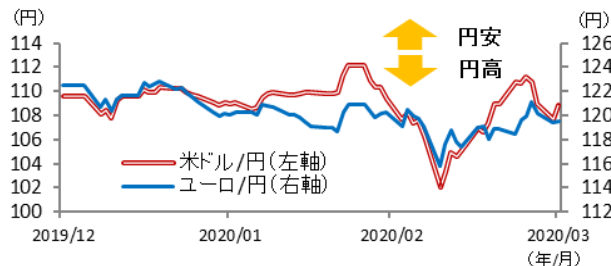
図表5 次世代モビリティオープンの基準価額騰落率

(2019年12月30日～2020年3月31日、分配金再投資ベース)



図表6 為替レート

(2019年12月30日～2020年3月31日、日次、TTMベース)



(出所) Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

2020年1-3月期の基準価額騰落率は、「為替ヘッジあり」が-19.34%、「為替ヘッジなし」が-20.21%となりました(図表5)。

マザーファンドが投資する自動車・自動車部品株や半導体株が下落したことがマイナスに寄与しました。また、為替市場において、円が対外通貨に対して上昇(円高)したため、「為替ヘッジあり」の基準価額騰落率は、「為替ヘッジなし」を上回る結果となりました(図表6)。

個別銘柄では、市場予想を下回る2020年の業績見通しを示した自動車部品のアプティブ(英領ジャージー)の株価が下落したことがマイナスの影響となりました。加えて、自動車向けの売上比率が高い半導体のオン・セミコンダクター(米国)やインフィニオン・テクノロジーズ(ドイツ)の株価が下落したこともマイナスの影響となりました。一方、中国で生産を開始したテスラ モデル3の販売台数が予想を上回った電気自動車メーカー テスラ(米国)の株価上昇が、プラス寄与となりました。また、半導体のエヌビディア(米国)は、自動車向けは伸び悩んだものの、主力のデータセンターやゲーム機向けの売上が好調だったことが好感され、株価が上昇したこともプラスに寄与しました。

今後の運用方針

次世代モビリティ分野における長期的な成長性が期待できる銘柄を選別して投資する方針です。自動車・自動車部品株は、厳しい事業環境が予想されるものの、先進運転支援システム(ADAS)や電気自動車(EV)向け部品は、底固い需要が期待できると考えています。また、半導体やソフトウェア・サービス株については、電気自動車やモビリティ・サービス分野での成長がドライバーとなり、堅調に推移するものと予想しています。

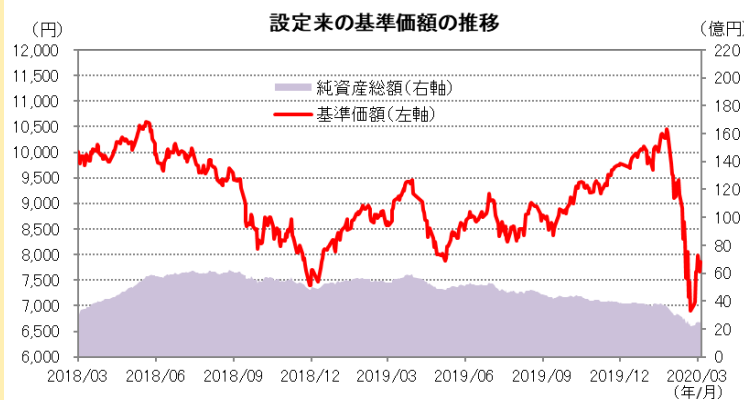
当面の運用につきましては、半導体株や自動車・自動車部品株及びソフトウェア・サービス株を高位にウェイト付けします。また、世界的にサービスが拡大しているライド・シェア(配車サービス)関連株の買付けを検討します。一方、需要の落ち込みが懸念されるガソリン/ディーゼルエンジン車向けの売上比率が高い自動車部品株については、売却を検討します。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／内外／株式

為替ヘッジあり(作成基準日 2020年3月31日)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額(円)	7,867
残存元本(口)	3,172,212,717
純資産総額(円)	2,495,575,070
実質株式組入比率(%)	90.0
短期金融商品その他(%)	10.0
組入銘柄数	51

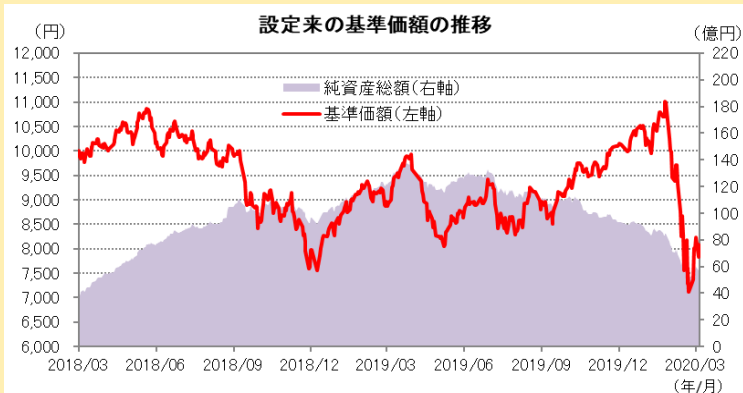
為替ヘッジ比率(%)

90.8

※実質株式組入比率には、不動産投資信託(REIT)を含みます。

※比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

為替ヘッジなし(作成基準日 2020年3月31日)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額(円)	8,091
残存元本(口)	7,266,228,973
純資産総額(円)	5,878,801,344
実質株式組入比率(%)	90.2
短期金融商品その他(%)	9.8
組入銘柄数	51

※実質株式組入比率には、不動産投資信託(REIT)を含みます。

※比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

組入上位業種			組入上位国・地域		
	セクター名	比率		国・地域名	比率
1	半導体・半導体製造装置	30.0%	1	米国	64.4%
2	自動車・自動車部品	18.2%	2	オランダ	6.9%
3	ソフトウェア・サービス	15.9%	3	日本	6.4%
4	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.2%	4	ドイツ	3.6%
5	小売	6.0%	5	ケイマン諸島	3.2%

組入上位10銘柄				
	銘柄名	セクター	国・地域	比率
1	テスラ	自動車・自動車部品	米国	4.7%
2	アルファベット	メディア・娯楽	米国	4.5%
3	エヌビディア	半導体・半導体製造装置	米国	4.3%
4	アンシス	ソフトウェア・サービス	米国	3.8%
5	アマゾン・ドット・コム	小売	米国	3.7%
6	アドビ	ソフトウェア・サービス	米国	3.3%
7	インテル	半導体・半導体製造装置	米国	3.1%
8	日本電産	資本財	日本	3.0%
9	クアルコム	半導体・半導体製造装置	米国	2.9%
10	オートデスク	ソフトウェア・サービス	米国	2.8%

※比率は、次世代モビリティマザーファンドの純資産総額に対する組入比率です。

※国・地域は発行国で表示しています。

(作成：運用本部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／内外／株式

次世代モビリティオープン(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.30%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.804%（税抜1.64%）
- その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用等を信託財産でご負担いただけます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただけます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）／（為替ヘッジなし）
追加型投信／内外／株式

2020年4月16日現在

販売会社

（受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次販売会社が含まれております。）

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
岡三オンライン証券株式会社	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
アーケ証券株式会社	関東財務局長(金商)第1号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長(金商)第15号	○		○	
臼木証券株式会社	関東財務局長(金商)第31号	○			
永和証券株式会社	近畿財務局長(金商)第5号	○			
エース証券株式会社	近畿財務局長(金商)第6号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
篠山証券株式会社	近畿財務局長(金商)第16号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
島大証券株式会社	北陸財務局長(金商)第6号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
*荘内証券株式会社	東北財務局長(金商)第1号	○			
新大垣証券株式会社	東海財務局長(金商)第11号	○			
大熊本証券株式会社	九州財務局長(金商)第1号	○			
大山日ノ丸証券株式会社	中国財務局長(金商)第5号	○			
東武証券株式会社	関東財務局長(金商)第120号	○			
内藤証券株式会社	近畿財務局長(金商)第24号	○			○
フィデリティ証券株式会社	関東財務局長(金商)第152号	○			
丸八証券株式会社	東海財務局長(金商)第20号	○			
三木証券株式会社	関東財務局長(金商)第172号	○			
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三京証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○		○	
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
(登録金融機関)					
*株式会社神奈川銀行	関東財務局長(登金)第55号	○			
株式会社富山銀行	北陸財務局長(登金)第1号	○			

*荘内証券株式会社は、「為替ヘッジなし」のみの取扱いとなります。
*株式会社神奈川銀行は、「為替ヘッジなし」のみの取扱いとなります。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）